

## 平成25年度 附属学校研究支援経費による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	白府士孝・北海道教育大学附属特別支援学校・教諭
研究期間	平成25年7月～平成26年3月
プロジェクトの名称	今後の特別支援教育を担う教員を対象とした教員支援プログラムの開発～地域の学校における心理アセスメントを活用した長所活用型指導の導入～
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付すこと	青山 真二・札幌校・教授 五十嵐靖夫・函館校・教授 中村 洋子・附属特別支援学校・小学部主事 和倉 歩・附属特別支援学校・中学部主事 ○白府 士孝・附属特別支援学校・小学部教諭
成 果 の 概 要	
<p>本プロジェクトは、特別支援学校のセンター的機能の「小・中学校等の教員への支援機能」と「障害のある幼児児童生徒への指導・支援機能」の充実に向けた実践的かつ効果的な教員支援プログラムの開発を目的とした。まず、今後の特別支援教育を担う教員を対象とした「教育相談」を起点として、心理アセスメントを活用した「児童生徒理解」へ、そして根拠に基づいた「長所活用型指導」へと繋ぐ教員支援プログラムの開発を行った。具体的には、函館市立弥生小学校特別支援学級の経験年3年目の教員を対象として、認知特性を活かした6年生の国語指導をテーマに実践的な指導のサポートを行った。そして、本プロジェクトの成果については、第51回日本特殊教育学会（明星大学）において、「心理教育アセスメントとICTを活用した平仮名の単語読み指導～心理教育アセスメントの結果に基づいた長所活用型指導を通して」と題して実践発表を行った。また、函館市や北斗市などの渡島近隣市町村の教員を対象とした研修会を実施し、定員を大幅に超える110名の応募があった。こうした状況から、今後もさらに地域の教員のニーズに応えられるように教員支援プログラムの開発および心理教育アセスメントを活用した実践に努めていきたい。以上のことから、今年度も本プロジェクトを通して中期目標における「大学と一体となった附属学校の運営/先導的・実験的な教育研究の実現」に附属特別支援学校として貢献することができたと考える。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
<p>【著 書】無し 【学術論文】白府士孝，心理教育アセスメントとICTを活用した平仮名の単語読み指導～心理教育アセスメントの結果に基づいた長所活用型指導を通して，日本特殊教育学会第51回大会論文集，2013，P5-A-11</p>	
教 育 現 場 で 活 用 可 能 な 分 野 等	
特別支援教育分野で、今後の効果的な校内支援体制整備や具体的な学習指導や生徒指導のスキルアップのために現職教員が研修を行う際に利用可能である。	
配付可能な資料の有無	資料あり：冊子体20部
ダウンロード可能なドキュメント	無し
問い合わせ先	責任者：白府士孝 電 話：(0138) 46-2515 FAX：(0138) 46-2516 Mail：